
研究成果発表会2004報告

企画調整部 研究企画科

平成 16 年 4 月 12 日（月）、農業環境技術研究所・研究成果発表会 2004 を「安全・安心な農業環境を目指して」というテーマで、つくば国際会議場（エポカルつくば）において開催した。農業環境技術研究所は 2001 年 4 月に独立行政法人として新たにスタートしたが、発足 1 周年を迎えた 2002 年 4 月 23 日には、研究所の研究内容を広く世間に理解してもらうことを目指して第 1 回の研究成果発表会を開催した。今回は、中期計画 5 年の半ばを過ぎた現在までの研究成果を紹介する第 2 回目の成果発表会である。参加者は、行政部局、民間企業、大学、公立場所、他法人、一般の方など所外から 84 名、所内から 91 名、計 175 名であった。

発表会は、陽理事長の挨拶に続いて、東京農業大学の進士五十八学長より「『農』の風景の意義と保全活用」というテーマで特別講演をいただいた。その後、地球環境部生態システム研究グループのスプレイグ研究リーダーより「農業環境における生物生息地を評価する」、生物環境安全部の松井昆虫研究グループ長より「外来昆虫の侵入リスクと生態影響の評価」、農業環境インベントリセンターの対馬微生物分類研究室長より「微生物インベントリーの活用方法を探る」、化学環境部の齋藤部長より「農業活動が流域の水質に及ぼす影響を解析する」、化学環境部の小野重金属研



特別講演をする進士東京農業大学学長

究グループ長より「カドミウム汚染土壌の修復技術の開発」と題して、最近の研究成果 5 題を報告した。

最後に岡生物環境安全部長の司会で一般参加者も含めた総合討論を行った。この中では、農業環境問題に対する多角的な解決アプローチの重要性が特に強調された。また、生産者・消費者の意識の向上に対し、研究所はその成果を積極的に公開する義務があり、また消費者はそれを求めているとの意見が出された。行政・研究・生産者・消費者の 4 者が円滑に意見交換ができる場とシステムを作っていく努力が必要であり、そこで議論が発展していけば、日本の農業環境問題を解決に導くひとつの道標となりえるのではないかと総括された。

参加者にアンケートへの回答を依頼したところ、48 名の方から感想、意見が寄せられた。成果発表会については「大変参考になった」など好意的に受け止めていただけたようであり、特に特別講演には関心が持たれたようであった。また農環研に対しては、「微生物のデータベースなど広く役立つデータを利用できる環境を整備してほしい」「市民との交流をもっと積極的に行ってほしい」「研究成果が他の分野に役立つ点も多いと思われるので、社会全体への提言を行うべき」といった期待も示された。

次回の成果発表会は最初の中期計画が終わり、新たな目標に向かう時期となる。いただいた意見を参考に、また開催時期、場所、広報方法も含め、成果を広く社会に示す場とすることが期待される。

また、発表会終了後には「第 2 回農業環境技術研究所友の会」が開催された。元・前所長 4 名はじめ、遠くは九州からの来訪者もあり、約 70 名の出席者で賑わった。昔の話に花が咲くだけでなく、将来の研究所のあり方で語り合い、盛会のうちに終了することができた。